みなと元町 TOWN NEWS タウンニュース
No. 304
発　行:みなと元町タウン協議会　住　所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内　発行人:奈良山喬一　編集人:岩田照彦　電話・FAX:078−391−0831

鯉川筋、再始動……

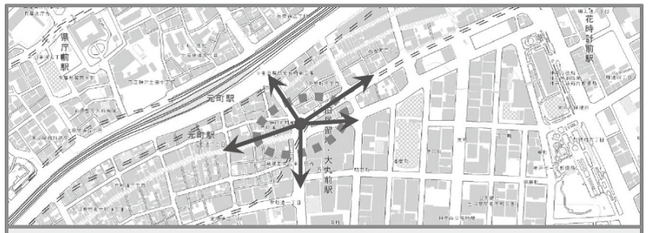
ゼンクリエイト　根津　昌彦

10月号で、三宮再整備計画である「えき≈まち空間」基本計画策定に向けた動きを紹介し、3年前の社会実験以降、鯉川筋の次の展開が見えないということを書いた。その言葉に反応したからかどうかは定かではないが、10月の神戸元町商店街まちなみ委員会の定例会で、谷澤委員長から去る10月6日（金）に、鯉川筋「にぎわいの回遊空間創出プロジェクト」実行委員会が久々に開催され、会合内容について報告があった。

同会合では、実行委員会が平成25年度に設立されて以降の取り組み経過を振り返るとともに、いま鯉川筋が抱えている課題として、①観光バスや荷捌き車両の道路上での駐車、②自転車の歩道上の不法駐輪、③鯉川筋による東西の分断感の存在といったことが確認された。さらに、こうした課題に対する解決策を模索しており、観光バス対策については、2017年11月24日（金）～27日（月）の4日間、国土交通省と神戸市が連携して社会実験を行うことが話された。具体的には、交通渋滞の一因となっている観光バス事業者に対して、乗車場・降車場・駐車場（待機場所）を予め設定し、事前予約による時間調整と乗降場利用ルールを設定して、乗降場所への流入調整を行うことで、路上での滞留や車両待機の抑制を図るということが狙いとのことであった。また、鯉川筋における東西の分断感をやわらげることなどを狙って、回遊空間創出のための段階整備案が神戸市より提示された。その内容は、現状の車線数を減らさずに、ゼブラゾーンや停車帯を無くすことで生まれた空間を、鯉川筋西側の歩道空間と一体となるように整備するというもの。生まれた空間の具体的な使い方については、これから検討とのことではあったが、不法駐輪問題や歩行者空間の狭さが大きな問題となっている元町側での空間創出は、地域としては大いに歓迎すべきことである。是非とも意義や効果の高い再整備案の作成を期待するところである。

上記のような喫緊の課題への対応とあわせて、鯉川筋及び周辺地域の将来像を描くということの必要性も実行委員から声が上がったようで、今後は将来像検討に向けた取り組みも行われていく見通しである。前回紹介した三宮駅周辺の「えき≈まち空間」基本計画は、今年度末にはパブリックコメントを経て取りまとめが行われる予定である。また、経済観光局では都心商業魅力アップ事業という事業制度によって、「商業ビジョンを描き、実現する」という取り組みが2013年度から進められている。お隣りの三宮中央通りまちづくり協議会が元町東地域協議会と共同して、2015年3月に「大人の神戸が満喫できるスポット・シーンに溢れた“メリケンロード五叉路”を起点にし、三宮中央通り・元町東地域を再創造する」という商業ビジョンを策定し、具体的な取り組みを進めている。

みなと元町タウン2024構想の実現に向けては、地区計画の策定に向けた取り組みだけではなく、この鯉川筋及び周辺地域の将来像づくりへの積極的な関与も重要な取り組みであると言える。幸いにも、同実行委員会には、複数のタウン協メンバーが委員として参加しているので、実行委員会での取り組みはタウン協定例会などでも話題に上げて、地域で情報共有し知恵を出して地に足のついた実現へのイメージがしっかりと湧くような将来像を描いていければと思う。



「メリケンロード五叉路」を象徴化し、神戸のイメージを体感できる
「This is 神戸」という体感スポットを創出する。

「三宮中央通り・元町東地域商業ビジョン」より

【元町・夢街道】(204)

書店の話(6)　鳩居堂(5)

岩田照彦

前号まで、明治二十七年までに鳩居堂が発行した教科書関連の書籍を紹介した。

このほか、鳩居堂の出版物については「歴史と神戸」九十一号で、落合重信氏が発刊年別に整理されているので紹介する。同紙には、前号までに熊谷久栄堂として案内した出版物と重なるものは省いている。

明治六年
世事要言神田孝平著鳩居堂刊
明治七年
大日本詞の梯関治彦著鳩居堂刊
明治八年
読本熟字解水越成章著熊谷鳩居堂
明治九年
万国地誌要略字解　水越成章著　鳩居堂刊
小学人体問答　小倉庫二著　鳩居堂刊
明治十年
単語図綴字書　三浦純一編・画
改正小学読本字解　熊谷幸助（介）編・刊　熊谷鳩居堂刊
兵庫県小学校則編・刊　熊谷幸助（介）編・刊　熊谷鳩居堂刊
作文規範　生徒必携　岡村邁編　熊谷鳩居堂刊
明治十一年
日本地誌要略筌蹄　河野通雄編　鳩居堂刊
万国暗射地図符号解　原口松太郎著　鳩居堂刊
明治十二年
初学文編　竹内貞編　熊谷幸助（介）刊
注解普通用文章　西村義民著　熊谷鳩居堂刊
改正小学読本字解　西村義民著　熊谷鳩居堂刊
日本地誌略摘解　河野通雄著　鳩居堂刊
幾何画法　土屋甚四郎編　鳩居堂刊
明治十三年
地誌問答大内確璽著　熊谷幸助（介）刊
摂津五郡誌略　山下厳麗編　鳩居堂刊
三益訓蒙字林玉編　橋爪貫一編　熊谷幸助（介）刊
明治十四年
薇山摘葩　水越成章著　熊谷幸裕刊
明治十四年
日本地理誌字引　西村義民編　鳩居堂刊（25）

（注）名前を「幸助」と書かれたところに「介」の字を添えた。

神戸元町商店街 楽市楽座情報 12月

◇元町1番街商店街振興組合　TEL331−7850
ハートフルセレクション
11月18日（土）～12月14日（木）

◇元町三丁目商店街振興組合　TEL322−2797
元町3丁目ハッピージャンボくじ
12月16日（土）～12月24日（日）10時30分～19時

◇元町6丁目商店街振興組合　TEL367−5477
北はりま元気市 12月2日（土） 11時～16時
モトロク市 12月23日（土）・24日（日）11時～17時

◇風月堂ホール（有料）　TEL321−5555
もとまち寄席「恋雅亭」
12月10日（日）
桂　三語　　桂　福矢　　桂　宗助
桂　福楽　　中　入　　林家 うさぎ
笑福亭 鶴志
前売券は11月11日より風月堂で発売

◇こうべまちづくり会館ギャラリー（無料）　TEL361−4523
12月7日（木）～12月12日（火）
第11回川崎重工グループ絵画展（油彩・水彩・切りえ・パステル）
12月14日（木）～12月19日（火）
2017彩風会スケッチ展（水彩）
12月21日（木）～12月26日（火）
アートショップ明石2017セレクション展
（油彩・水彩・写真・書道・立体）

◇元町映画館（有料）　TEL366−2636
12月2日（土）～12月8日（金）
『いのちのはじまり 子育てが未来をつくる』
『狂覗』
12月2日（土）～12月15日（金）
『隠された時間』
12月9日（土）～12月15日（金）
『いぬむこいり』
12月9日（土）～12月22日（金）
『台湾萬歳』・『アンダー・ハー・マウス』
12月16日（土）～12月22日（金）
『点』・「アレハンドロ・ホドロフスキー特集」
12月16日（土）～12月29日（金）『十年』
12月23日（土）～ 『エンドレス・ポエトリー』
12月30日（土）のみ 『ハッピーアワー』

栄町通クリーン作戦

栄町通まちづくり委員会は11月10日（金）10時から10時30分まで、栄町通を中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り付け作業など、栄町通クリーン大作戦を実施した。参加者は、（元栄海三丁目自治会）奈良山喬一、（神戸市住宅都市局）坂田竜一・田中淳也、（広島銀行）岡田大輔、（兵庫県信用組合）村上彰啓・中西景子、（パナホーム㈱）堀裕臣・宮崎哲弘・（まちづくり会館）小椋辰海、（三鈴マシナリー㈱）水口裕美子、（大一産業）渡部友貴、（㈱神明）西尾拓也、（神明倉庫）藤尾憲弘・十時実希、（㈱イーエスプランニング）有本雅美、（佐野運輸㈱）志賀俊之・粟井聡、（新光明飾）中川俊・藤田直之・西村友博、篠原博明、（佐田野不動産㈱）佐田野宏之以上、２２名のみなさんでした。毎月第２金曜日午前１０時、栄町通６丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。

編集後記

近代事物起源辞典に、勝海舟が咸臨丸で渡米した万延元年、みやげに「アンブレラ」を買って帰ったという話がある。が、使用はしなかった。攘夷の浪人の目にとまれば、バッサリやられると自制したらしい。江戸城で披露したところ、老中の安藤信正は「こうもりのごときものじゃやのう」。▼明治になると、高価な輸入品にもかかわらず大流行。高価なため、雨が降ると濡れないようにと桐油を塗り、小脇にかかえて走り出す者も。一方、使い終えて捨てられた洋傘を集めて修理する再生傘屋も繁盛したようだ。▼いま、路上に捨てられたビニール傘を目にすることがある。風がビニール傘を凶器に変身しないことを祈る時代である。

海という名の本屋が消えた（49）

平野義昌

池長孟　その4

1940(昭和15)年3月、池長孟念願の〈池長美術館〉が開館した。鉄筋コンクリート3階建て、倉庫・住居含め延224坪。神戸市葺合区(現在中央区)熊内町、孟の自宅〈紅塵荘〉からほど近い。建物は38年5月に完成、2年の準備期間をおいた。
《一階ホールには大理石の柱が建ち、中央には優雅な大理石タイルで六角形にしつらえた小さな噴水がある。》註1

噴水周りのガラスケースに絵が飾られ、天井は一部吹き抜け、2階に貴賓室と館長室があり、3階の休憩室から神戸港が望めた。

建設総工費10万円は美術品に費やした金額に比べれば、小規模と思える。孟は「金が無くって手狭なものしか建てられなかった癖にヘラズ口をたたくようですが」(註2)と、美術品に自信をもっていた。補修・表装にも手間暇をかけた。敷地は十分あるので、資金ができれば別棟を建設するつもりでいた。

開館の披露宴を4回に分けて開催した。3月21日官公庁関係者、25日美術商、28日親戚を招いた。30日は美術家・文化人、谷崎潤一郎(作家)、林重義(洋画家)、川西英(版画家)、大塚銀次郎(元新聞記者、画廊主)、竹中郁(詩人)、小磯良平(洋画家)、鈴木清一(洋画家)という顔ぶれ。

第1回展覧会は4月1日から5月31日まで(以降44年まで毎年同時期開催)、入場料金は大人50銭、小人30銭(筆者註、映画館の大衆席が40銭、良い席が70〜80銭)。美術館建物の絵葉書セット(30銭)と蒐集品の絵葉書セット(80銭)、解説書『南蛮堂要録』(50銭、以下『要録』)を販売した。「大阪朝日新聞」「大阪毎日新聞」各神戸版、「神戸新聞」が大きな見出しで開館を報道した。街頭掲示の「同盟写真ニュース」も《文化美術史上に金字塔を築いた　颯爽たり池長美術館登場》(註3)と紹介している。

孟は『要録』で美術館開設と文化行政について持論を述べている。
《私があまり豊かでもない身の程をも顧みず、相当無理をしてまでもこんな美術館を開いて一般社会に公開提供したのは何のためであるか。(中略)神戸のような国際大都市にして、美術館の一つも持たないということは、国民教養の程度も察せられて大きな国辱である。》(註2)

神戸の名を挙げたのは郷土愛のためと断わったうえで、戦争に強くても文化のレベルが低いのは世界の一等国とは言えないと、精一杯の国家批判をしている。さらに、「社会教育」について進歩的な意見を述べる。
《……学校教育よりもさらにもっと重要なのは社会教育ではありませんか。親爺教育の方が大切だ。(中略)私が文化施設というのはつまりこの方面の社会教育機関で、美術館などもその一役をつとめるものであります。》(註2)

孟は美術館の外観や規模よりも防災を第一に考えた。完成間もない38(昭和13)年7月5日、阪神大水害が神戸の街を襲った。高台であったため建物・美術品に被害はなかった。池の鯉と金魚は流されてしまったが。
《道具がまだ揃わぬところへ水道はとまる交通機関はとまる、おまけに従来私の片手となって働いてくれ私の仕事に馴れきった小野(筆者註、義弟・執事小野篁一)が、病気で寝てしまって終に死亡した。いやもうさんざんな目に会ったのである。併し不自由なだけで幸にして殆んど被害はなかったので気の毒な人達の事を思えば不足は決して言えぬ。》(註2)

孟は従来から美術品保存・保管には心がけ、カビ対策のため採光・換気・通風に気を配っていた。大水害でさらに危機感を持った。7日付けの新聞は水害被害の記事と共に、盧溝橋事件1周年を伝えていた。孟は戦争の泥沼化、拡大による空襲も想定した。倉庫の窓は小さくし、防火ガラスを使い、シャッターを取り付けた。本館と倉庫の間に住宅部分を配置して、これを防火壁代わりにするほどであった。
『要録』から孟の蒐集過程を見てみよう。絵の種類・分類については後述する。
《抑々の始まりは昭和二年八月十一日である。ふとした機会で大阪の内本町のべにや美術品店の前を通ったら、陳列窓に蘭船や唐船の肉筆画や、いろいろ風変りな品が列べられていた。そこで店内に飛び込んで始めて「バッテイラ渡海圖」と「魯西亜船」の木版を見せられたのである。その時はこれが長崎版とも知らずに高価だとは思いつつ買いとった。》(註2)

翌9月、心斎橋の古書肆〈鹿田松雲堂〉(筆者註、初代は大塩平八郎蔵書処分に立ち会ったという老舗。孟は牧野富太郎と植物学文献を購入)で横浜絵を購入。そこで美術商〈杉本梁江堂〉を紹介され、江戸絵・長崎絵蒐集を開始する。31(昭和6)年4月、長崎絵蒐集がほぼ完成し、神戸大丸で3日間〈長崎繪展覧會〉開催した。東京・大阪の美術商に紹介された京都帝大の学者(筆者註、心理学者・黒田源次と言語学者・新村出)が孟を高く評価し、蒐集品を譲った。長崎・山口・奈良の旧家からは万円単位の購入をした。孟自身も交渉・買い取りに奔走している。蒐集範囲は黄檗像、銅版画と広がっていく。
《池長の蒐集方法は、これというテーマに狙いを定めたら、ともかく脇目をふらずに短期間でそのジャンルの作品を買いあさる、というやり方であった。(中略、「せまく深く」)その点、彼の姿勢は本人がいくら否定しようとも優れて学問的であった。》(註3)

南蛮美術は競争相手が少なく、美術商も明確な目標で集めやすい。孟は美術商、学者、在野の研究家、蒐集家ら多くの協力者の名を上げ、「……皆私の蒐蔵に関して忘るべからざる俤」(註1)と感謝を述べている。

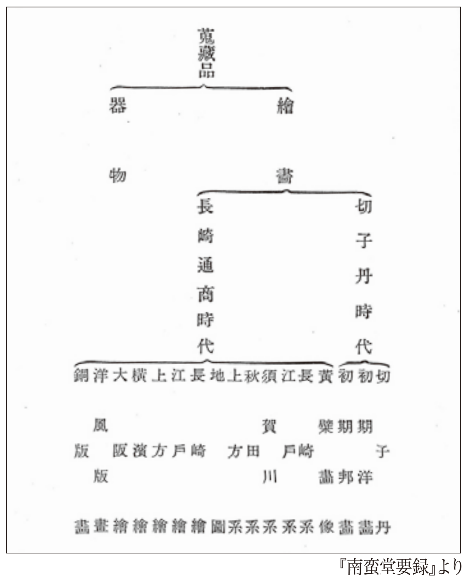
特に美術商たちは、名だたる蒐集家や名家・旧家を相手に家宝の売買交渉をする。贋作や盗品もある。知識や目利きだけではなく、譲渡・価格についての駆け引きは肝っ玉勝負だ。
《「細かいことグズグズ言うてたら大きなことなんかできん。世間の言うことなんか気にせんで、気持ちを大きく持たなあかんで」というのが池長の口ぐせだった。》(註1)

孟は蒐集家として大きな度量を持つ一方、芸術愛好家の繊細な神経を持っている。保存・保管の心配りに加え、詳細厳密な分類はその現れである。
《……池長コレクションとは何ぞやと申しますと、つまり日本で製作された異国趣味美術品なのです。》(註2)

蒐集品を絵画と器物(工芸品)に分け、絵画を「切支丹時代」と「長崎通商時代」に区分する。(図)
「切支丹時代」はスペイン・ポルトガル(南蛮)のキリスト教文化に影響を受けた美術作品。年代は1543年から1638年(天文12年から寛永14年)の約100年、ポルトガル人漂着から「島原の乱」平定まで。
「切支丹」はキリスト教の遺物。孟は大阪府茨木町(現在茨木市)の隠れキリシタン子孫から遺物を引き取ることができた喜びを語っている。長く続いた禁教・弾圧により多くの美術品が焼失した。
「初期洋画」はヨーロッパ人の指導で日本人が描いた洋画。「聖フランシスコ・ザヴィエル像」「泰西王侯騎馬図」など。
「初期邦画」は狩野派他伝統的絵師たちが表現した異国趣味日本画。狩野内膳「南蛮屏風」など。
「長崎通商時代」は1639年から1867年(寛永15年から慶応3年)の約230年、ポルトガル船来航禁止から徳川幕府大政奉還まで。海外の情報は長崎出島で通商を認められたオランダ人(紅毛)と唐人(明・清になっても唐人)から。
「黄檗画像」。中国で発展した洋画技法が当時成立流行した禅宗黄檗派名僧の肖像画に取り入れられ、長崎に伝わった。
「〜系」はその土地で発展した洋画。長崎では最先端の技法が生まれ、孟は後に15の画系に分類した。江戸では蘭学者たちが活躍。
「〜絵」は木版画。「長崎絵」は現存数が少なく、孟がほとんどを蒐集したと言われている。「江戸絵」は浮世絵。
《神戸市立博物館に引き継がれた南蛮堂コレクションはすべて、この整理法の通りに収蔵庫内に仕分けされ収納されている。今日の美術史研究は池長の時代よりも格段に進歩しているが、池長孟の分類法は、いまだにその合理性を失っていない。》(註3)

博物館学芸員にとっても外部の研究者にとっても、孟の「恩恵は計り知れないのである」(註3)。1955(昭和30)年5月、孟はこの蒐集品分類を『南蛮美術目録』にまとめる。

註1 高見澤たか子『金箔の港』筑摩書房 1989年
註2 池長孟『南蛮堂要録』池長美術館 1940年 原文は旧字旧かな
註3『南蛮堂コレクションと池長孟』展カタログ　神戸市立博物館 2003年



『南蛮堂要録』より

出来事ファイル（No.17−12）

■「神戸みなと・まち案内」完成

神戸ハーバランドが街びらきして25周年を迎えたのを記念して、みなとまち案内(発見編)と(時空編)をそれぞれの面に分け、25周年記念事業委員会が案内地図を作成した。発見編では湊川から新開地、ハーバーランド、元町商店街までの歴史的なポイントを、時空編では同地域の歴史的建造物を紹介、地域全体の話題豊富な歴史を紹介している。

■ひろがる神戸タータン採用商品

神戸タータン協議会は、神戸タータン柄の商品開発をPRしているが、すでに幅広い分野で商品化が始まった。神戸港紋章にとりいれたほかネクタイ、ポケットチーフ、ビーチサンダル、フォーマルタイ、シューズ、クッキーのパッケージ、缶マッチ、携帯電話用ケース、マグカップ、ショッピングバッグのほか、ファッションショーの舞台にも登場している。

■元町ワインフェスティバル

6丁目でスタートした元町ワインフェスティバルは10月27日(金)・28日(土)の両日、元町3町目商店街の東側一帯を会場に開かれた。初日の27日は17時から、パルパローレ前で開会式を開催、山田事業部長が挨拶のあと、一般参会者とともにワインで乾杯、モリオカルテットの音色にさそわれ、仕事帰りの人が集ってワインを楽しんでいた。

■ラジ関・元町１番街で公開収録

１番街商店街では10月22日(日)空店舗をラジオ関西の公開放送局にして13時と14時の2回、来街者を楽しませた。MC役はChocoさん、13時からの収録にはORIXBUFFALOESのBsGirls「CHAL＆MIYU」さん、14時からは舞踏派アイドル神井花音さんが登場、元町商店街での英語レッスンの思い出など語っていた。

■最新「乙仲通MAP」

10月１日、乙仲通界隈プロジェクト委員会制作の乙仲通の最新情報誌「乙仲通MAP」が完成した。これまでとは異なる18センチ角の冊子型。エリアを３グループに分け色別に分類、その流れで現実の店舗紹介につなげて見やすくしたうえ、掲載店舗情報も同一カラーに統一、楽しい店舗内を詳しく紹介している。参加各店舗や委員会事務局でどうぞ。

■元町の芸術家たちが座談会

阪神淡路大震災の年から始まった「元町の芸術家たち展」が15回目の節目を迎えたことから、いままでの足取りを冊子にまとめることになり、10月25日(水)16時から協和会館で、発足当初から出展してきた面々が集い、座談会を開いた。元町商店街と芸術とのかかわり、これまでの思いで、これからの方針などなどについて語りあった。

■改訂版「港町の歴史を歩く地図」登場

タウン協議会が作成して人気を集めていた「港町の歴史を歩く地図」がなくなったため、このほど「元町商店街ショップガイド」と共に、全21頁の冊子型形式でリニューアルした。従来の地図とスポットの紹介は10頁にわたって編集、後半10頁は、元町商店街全組合員店舗を電話番号もそえて紹介した。元町商店街や市内観光案内所でどうぞ。

■太田治子さんと林未来さん対談

10月29日(日)14時30分からまちづくり会館で、映画に詳しいジャーナリストの伊良子序氏の司会で、作家の太田治子氏と元町映画館支配人・林未来さんの対談「まちのたまり場　劇場(こや)」が開かれた。常連客をつなぐ場の提供や映画作家の集まり、映画監督の来場者観察など、商店街の中のミニシアターならではのにぎやかな話題で予定時間を超す対談に。

元町商店街イベント企画案募集中

神戸元町商店街では、これまでとは異なる魅力付けや事業企画の必要性を感じ、商店街イベントの企画案を広く募集しています。

①イベントの名称、内容と開催時期
②イベント開催の目的と効果
③提案者の氏名・年齢・職業・住所・連絡先(℡とメールアドレス)
④平成３０年１月１５日(月)必着
⑤最優秀賞１点 賞金５万円 優秀賞２点 賞金各３万円

問合せ・申込先：
神戸元町商店街連合会 担当：中多
住所：〒650−0022
神戸市中央区元町通3丁目13-1
℡・fax：078-391-0831
Email：motomachi@eco,ocn.ne.jp